

平成21年9月8日（火）

○議長（中西峰雄君） 順番9、13番 瀧君。

〔13番（瀧 洋一君）登壇〕

○13番（瀧 洋一君） 議長の許可をいただきましたので、通告に従いまして一般質問を行います。

8月30日、私たちは新しい歴史をつくりました。2009年決着の夏、官僚主導の自民党を中心とする政権から、私たちの手に政治を取り戻す、そんな政権交代が実現をした日でした。しかしながら、あくまでも私たちのための政治の舞台がつくられたに過ぎません。これから行っていく政策により夢を実現していかななくてはなりません。私も政権与党に所属いたします議員として、身の引き締まる思いと同時に、しっかりと市民のための政治を行っていく決意でいっぱいでございます。また、その際に最も重要なのは市民の声であります。私たちの未来は私たちの手で、市民と行政が一体となったまちづくりを目指して、今回もお尋ねしたいと思います。

1点目、木下市長の政治姿勢について問う。

8月30日に執行されました第45回総選挙において民主党が絶大な国民の支持を受け、政権を担当する運びとなりました。この和歌山2区におきましても、民主党の議員が当選を果たしました。今まで自由民主党を中心に支持をされてきました木下市長は、今後どのような政治姿勢で市政運営をされるおつもりなのかお尋ねいたします。

次いで、6月定例会から本市が本当に住んでよかったと思えるまちにするために問題点を洗い出し、政策検討し、提言を行っていきたいと思っております。その第2回目として、今回は私たちの大事な税はどのように使われているのか考えてみたいと思ひ、お尋ねいた

します。

「住んでよかったと思える橋本市にするために「パート2」と題しまして、今回は市の予算がどの分野に重点的に使われているのかお尋ねいたします。

①県内、周辺自治体、類似団体と比較しまして、予算全体から見て款別の割合で特徴的な点はどんなところでしょうか。合併以降でお尋ねをいたします。

②民生費、土木費関係の予算について、当局のお考えをお尋ねいたします。

③市単独事業（人件費を除く）が全体予算に占める割合についてお尋ねします。

以上、明快な答弁をいただけますよう期待いたしまして、私の1回目の質問を終わります。

○議長（中西峰雄君） 13番 瀧君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君） 瀧議員のご質問についてお答えをいたします。

私は橋本市民の皆さまの幸せと我がふるさと橋本市の発展を願い、その一心で市政への情熱を燃やしてまいりました。市長就任以来、市民の皆さまがこのまちに住んで本当によかったと思っただけのまちづくりの実現に向けて、微力ではございますが、各諸施策に取り組んでまいったところであります。

私のまちづくりの基本姿勢であります「安心・安全なまちづくり」「活力みなぎるまちづくり」「緑うるおうまちづくり」の三つの基本姿勢は今後も堅持し、推進してまいりたいと考えております。

今回の衆議院選挙で自民党にかわり民主党

が政権与党となり、今後国勢を担っていただくわけですが、今後の本市の抱えている多くの諸問題の解決のために、それぞれ国へ向けての要望を積極的に進めてまいりたいと思います。当然国政をご担当いただいております政権与党の民主党を中心をお願いすることになろうかと思えます。私の個人的な政党支持は別といたしまして、橋本市長として、先ほども申しましたように橋本市民の幸せと橋本市の発展を願い、今後とも瀧議員はもとより、議員各位のご協力を得ながら市政運営に邁進してまいり所存でございますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いを申しまして、答弁とさせていただきます。

なお、残余の件につきましては担当参与よりお答えをいたさせます。

○議長（中西峰雄君）総務部長。

〔総務部長（中山哲次君）登壇〕

○総務部長（中山哲次君）それでは、続きまして、住んでよかったと思える橋本市にするため、市の予算がどの分野に重点的に使われているのかとのお質問にお答えいたします。

まず1点目の予算において他市等と款別に比較した場合の本市の特徴でございますが、合併後の平成18年度から平成20年度までの3年間を普通会計決算ベースで県内各市と比較いたしますと、県下各市とも歳出総額に占める民生費の構成割合が一番高く、本市では平成18年度は歳出全体の26.9%、平成19年度で26.0%、平成20年度で28.9%となっております。ちなみに県内各市の平均値は平成18年度で28.9%、平成19年度28.6%、平成20年度29.7%であり、また類似団体では平成18年度で25.6%、平成19年度で26.7%でございます。民生費につきましては、全国的に見ましても今後さらに増加傾向になっていくものと推測いたしております。

続きまして、平成18年度以降を総体的に見

た場合、構成割合の高いのが総務費、衛生費、土木費、教育費、公債費であり、県内各市及び類似団体でも、順位は多少の差異はあるものの、ほぼ同様の傾向を示しております。本市では特に際立った特徴はございませんが、中でも衛生費や土木費の割合が県内平均値や類似団体と比較すると少し高く、公債費の割合がやや低い結果となっております。なお、類似団体につきましては、平成20年度決算に基づく数値がまだ作成、公表されてございませんので、平成18年度と平成19年度の2年間での比較となります。

次に、2点目の民生費、土木費関係の予算についてでございますが、民生費につきましては、前段でも申し上げましたように構成割合では本市も含め全国的に増加傾向にあります。また、額的に見ましても本市では平成18年度決算で63億4,398万8,000円、平成19年度決算で67億7,872万3,000円、高野口こども園を建設した平成20年度決算では72億7,343万6,000円、今年度当初予算は71億3,955万7,000円と年々増加しております。

この主な要因といたしましては、高齢化の急速な進展による扶助費の増加や少子化対策のための経費の増加などの影響によるものでございます。市といたしましても、厳しい財政状況ではございますが、昨今の経済状況や国政の動向を十分見きわめながら、必要な予算につきましては重点的に予算化をしてまいりたいと考えております。

次に、土木費の予算でございますが、款別予算の状況を見ましても、本市の歳出予算に占める土木費の割合は県内平均値より高くなっております。これは、公共下水道事業や地区画整理事業の実施も一つの要因と考えられますが、本市ではまだまだ道路整備の必要性が高いことから予算に反映されているものであります。

今回の選挙で、国政は大きく変わり、公共事業の見直しにより道路関連予算も大幅に削減されると推測いたします。しかしながら、地方都市である橋本市はまだ道路整備が不十分であり、今後も引き続き国に対して強く要望してまいりたいと考えております。議員におかれましても、橋本市の実情を十分ご理解いただき、ご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

3点目の人件費を除く市単独事業が全体予算に占める割合についてでございますが、平成20年度地方財政状況調査の一般行政経費に関する状況調査をもとにご答弁をさせていただきます。なお、一般行政経費とは、地方公共団体が地域社会の振興を図るとともに、その秩序を維持し、住民の安全、健康、福祉の維持向上等を図るために行う一切の行政事務に要する経費から人件費や公債費、投資的経費、公営企業に対する繰出金などの経費を除き、それぞれの分野に分類し算出したものでございます。議員おただしの人件費だけを除いた市単独事業の数値となりませんので、ご了解をいただきたいと思います。

まず、平成20年度普通会計における歳出決算総額は、251億4,042万2,000円で、うち一般行政経費の単独費は57億3,165万4,000円となり、歳出総額の22.8%になります。さらに、一般行政経費の単独費総額57億3,165万4,000円を主要な分野ごとに分類いたしますと、少子化対策等に要する経費は8億662万5,000円で、一般行政経費の単独費総額の14.1%、高齢化対策等に要する経費は5億9,394万5,000円で10.4%、環境対策等に要する経費は11億3,420万6,000円で19.8%、健康対策等に要する経費は2億8,674万5,000円で5.0%、農林水産業振興等に要する経費は4,266万5,000円で0.7%、地域産業振興等に要する経費は1億27万2,000円で1.7%、地域基盤整備等に要する

経費は1億8,103万5,000円で3.2%、防災対策等に要する経費は2億6,253万3,000円で4.6%、人材育成等に要する経費、いわゆる教育費は11億5,505万9,000円で20.1%、管理的経費は6億2,389万2,000円で10.9%となり、本市では教育費や清掃費、民生費のうち児童福祉費に多くの単独経費が充当されている結果となっております。

国においては、去る8月末に来年度予算の概算要求が財務省に提出されましたが、政局が変わり今後の予算編成も大きく変わろうとする中で、市といたしましては国の政策を十分考慮した上で、今後も健全財政を維持しながら、橋本市に住んでよかったと言っていたようなまちづくりに邁進してまいりたいと思います。議員各位のご指導、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（中西峰雄君）13番 瀧君、再質問ありますか。

13番 瀧君。

○13番（瀧 洋一君）それでは、まず1点目の木下市長の政治姿勢についてから再質問をさせていただきます。

きのうから市長の答弁もお伺いしております。公人として、橋本市長という公職にある立場として、政権与党を支持していくというようなご発言、昨日からもございまして、それに関して心強くは思っておるんですけども、今まではどのようなスタンスで来られたのか。公人として政権与党でありました自由民主党、また公明党をご支持されていたのかなという思いと、やはり昭和50年から橋本市議選以降、自民党の党籍をお持ちだったというようなことも昨日の発言の中であったかと思うんですけども、例えば選挙の際とか、国政選挙等でも橋本のところまで候補者をお迎えに行かれたり、市役所前での演説、これは公職としての立場としてなさっておら

れたのか、私人としての立場でそういう演説等をされていたのか。その点についてちょっとお尋ねします。

○議長（中西峰雄君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）瀧議員の再質問にお答えいたしたいと思います。

私も自民党の党籍を持って、長きにわたって自民党政権ということもあったわけがございますけれども、それでずっと踏襲をしてきたことは事実であります。このたびの選挙におきましても、公の人間としまして、現職であった自民党の石田さんに、これはやはりお世話になっておるといふ観点から、当然支持をしていくのが本筋であろうという判断でおったわけですが、私は公務の期間中はほとんど役所で詰めておったこと、これはもうみんなが認めておるわけでありまして、そういう考えでのスタンスで参ったところあります。

以上でございます。

○議長（中西峰雄君）13番 瀧君。

○13番（瀧 洋一君）特にこの問題をそんなに突っ込んでいこうというつもりはないんですけども、公務の間ということですが、例えば今回18日の公示日でしたか、橋本市役所前で、石田候補が来られて、ちょうど私も入ってきましたときに、市長がちょうど演説をなさっておられたんですが、あの時間帯というのは、まだ5時より前の時間帯だと思っています。特別職ということでそこらは、時間的なことは関係あるのかなのか、また部長、課長の方々も前でお聞きになられていたと思います。当然時間休暇等をとられていたのかなとは思いますが、そういう公務の間、政策の勉強なのかどうかのかわかりませんが、特にそれについてどうと追及しようというつもりじゃないんですけども、

今後政権与党に対してさまざまな陳情等ということで、政権与党に対して応援をしていくんだというようなことをおっしゃっていただいているので、もうこれはとどめさせていただきたいと思います。

あともう一つ気になるのは、今後、地域主権ということをおもて私ども民主党は言っておるわけですが、その中で先日うちの阪口代議士と市長室を表敬訪問させていただいた際にも、国道371号をはじめ道路関係のことはしっかりお願いしたいというようなことでの話もございました。今後そういった陳情というのはどのようなスタンスで、陳情という形をとっていかれるのか、それか陳情という形をとらずに与党と接していかれるおつもりなのか、その点についてお尋ねします。

○議長（中西峰雄君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）瀧議員の再質問にお答えをいたしたいと思います。

やはり、このたびの選挙は2区として阪口さんが当選をされたわけでありまして、基本的には阪口さんが2区でありますから、私としては阪口さんのほうに陳情等についてお願いをしていくのが当然であろうと判断をいたしてございます。

○議長（中西峰雄君）13番 瀧君。

○13番（瀧 洋一君）わかりました。またこれは非常にいいニュースなんですけれども、お隣のかつらぎ町出身で大阪11区の選出ではありますけれども、平野博文代議士がどうやら官房長官になられると、内定をしたというような情報も入っております。和歌山県から国務大臣というのを何名か今まで輩出したかと思うんですけども、橋本のお隣のかつらぎ町出身で、この町内でも多分同級生の方とかもおいでだったりするかもしれませんし、商工会議所の専務理事も同級生とお聞きして

おります。そういう、本当に今回恵まれた環境なのかなと。先ほどから国会議員も和歌山県で9人になったというような発言もございましたし、それに加えて官房長官もかつらぎ町出身ということで、非常に橋本にとってもいい政権ができるのかなと思っております。ですから、またそういった陳情等、私も平野先生とも親しくさせていただいておりますので、ぜひ一緒になって橋本市をよくしていくために頑張っていきたいと思っております。

ちょっと話を変えまして、昨日市長は次期市長選への出馬表明をされました。それについて、今回のこの質問との絡みですが、1期目の際、自由民主党、私ども民主党も推薦をさせていただいて、相乗りというような形で選挙戦を戦われて当選をされたわけでございます。2期目は無投票ということもあり、どの政党の推薦も求められなかったということですが、次期市長選に出馬表明をされたわけですが、そういった政党の推薦等についてはどのようにお考えなのかお尋ねします。

○議長（中西峰雄君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）瀧議員の再質問にお答えしたいと思います。

私は無所属で立候補をさせていただくということでございますが、他のそれぞれの各党につきましても推薦云々という問題は、後援会の皆さんのこともございますし、このたびは、これにつきましてはちょっと控えさせていただきますのでご了承いただきたいと思います。

○議長（中西峰雄君）13番 瀧君。

○13番（瀧 洋一君）わかりました。またご相談ください。

それでは、2点目に移ります。住んでよかったと思える橋本市にするためにということで、今回いろんな、前回住民サービスが少し

他のところに劣っていたりするのではないかなとか、そんなことについてパート1でお尋ねをしたわけですが、じゃあ実際いろんな市民の負担が増えてきて、私たちの大事な税はどこに使われているんだろうか。そんなことをお尋ねしてみたかった。そして、私たちの苦しい家計の中から納められている税が本当に無駄なく正しく使われているのかどうか。国政もそうなんですけれども、やはり市政においてもそういうふうにお考えの市民の方は多いと思います。特に住民市民税何でこんなに上がったんと。結構他の同僚議員も市民の方から問い合わせがあったことと思います。保険料何でこんなに上がったんという声もあったと思うんです。もちろん、それには私ら議会でいろいろ議論もさせていただき、情報もいただいているので、理解できるころはあるんですけども、じゃあ本当にお金の使い道、これももちろん予算、決算、議会を通してのわけですから、私たちもしっかりそれを認めてというわけなんですけれども、実際のところ他と比べてどうなのか、そんな点についてお尋ねをしたいと思うんですが、まず①で民生費が高いと。ただし、これは本市に限ったことではなく、全国的にということなんですが、民生費が高いということについての要因について、高齢化云々という話もありましたけれども、少しわかりやすく御説明いただけますでしょうか。

○議長（中西峰雄君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）瀧議員の質問にお答えいたします。

民生費でございますけれども、先ほどから議員もおっしゃるように全国的に高くなっていると。民生費の中でも児童福祉費、それから生活保護費が非常に高い伸びを示しております。児童福祉費につきましては、例えば児童手当、児童扶養手当、乳幼児医療、それか

ら保育所費、母子関係経費が児童福祉費に当たるわけでございますけれども、この経費が18年度と20年度と比べましても16.0%の伸び、増加を示しております。

生活保護費ですけれども、生活保護につきましても、18年度と20年度を比較いたしますと25.5%の著しい伸びを示しているという結果となっております。その要因といたしましては、昨今の経済情勢の悪化というのが一つの要因ではあると思っておりますし、高齢化社会の進展、それからそれによりまして生活保護費の増加ですとか医療費が非常に高い伸びを示しているというところに要因があるかと思っております。

それから、少子化対策につきましては、やはり国の政策といたしまして少子化対策経費を、非常に予算の拡充が図られておりますので、その辺の影響があるものと思っております。

○議長（中西峰雄君）13番 瀧君。

○13番（瀧 洋一君）ありがとうございます。だいたい民生費については理解をいたしました。

そしたら、県内の自治体と比べて衛生費、土木費が高いというご答弁だったんですが、衛生費はごみ処理かなと思うんですけども、ごみ処理、今度広域ごみになりまして、体制が変わったわけなんですけど、今後どのように推移すると見られていらっしゃいますでしょうか。

○議長（中西峰雄君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）衛生費の伸びにつきましては、議員おただしのおりごみ処理経費が非常に大きな負担となっているという状況でございます。特に本市が衛生費が高くなっている要因といたしましては、18年度から20年度にかけては広域ごみの処理施設の建設に係る経費が非常に増加しております。

それから、当然ごみ処理施設の建設に伴う条件工事費も含まれております。それから、市民病院の繰出金、これも衛生費になるわけでございますけれども、市民病院への繰出金も新しく病院を建てて医療機器の償還、建設費の償還が始まっておりますので、そんな関係で繰出金も増加しているということでございます。

ごみ処理の経費につきましては、当然今まで二つの施設でごみを焼却していたものが、広域ごみで処理をするということになりますので、その二つの処理する管理経費等は全く要らないということにはなるわけでございますけれども、収集につきましては直接やりましますし、新しく分別収集をさらに細かくするという事の中で、その辺の必要経費が多くなってきます。それから、新しい広域のごみ処理施設につきましても、当然管理経費、起債の償還が始まってまいりますので、その辺の負担金、広域に対する負担金が増加するという事で、広域ごみに移行したからといって極端に処理関係経費が落ちるというものにはなっていないのかと思っております。

そういうことから、今市長が大々的に取り組んでいる花と緑のリサイクル事業によりまして、できるだけごみ処理経費を落とそうという動きになっているということでございます。

○議長（中西峰雄君）13番 瀧君。

○13番（瀧 洋一君）わかりました。市長も常々おっしゃっていただいている生ごみの減量化、こんなところからここの圧縮をしていければと思います。

そしたらもう一回確認なんですけれども、広域ごみの建設に伴う周辺整備も含めてですけれども、ここで、18、19、20で高くなっていたとすれば、これに関しては今後21年以降はその分は減少するので割合的にも落ちつく

という理解でよろしいですか。

○議長（中西峰雄君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）先ほど申しましたとおり、広域ごみの新しい施設の管理費、それから起債を借りて新しい建物を建てておりますので、その償還が始まるということもありますので、極端に衛生費の費用が落ちるといことにはならないと思います。

○議長（中西峰雄君）13番 瀧君。

○13番（瀧 洋一君）そしたら今度は土木費なんですけれども、②とも関係するんですけども、土木費が少し高い。これの内訳が公共下水道、区画整理もあるんですけども、道路予算というようなことがあるんですが、ここでいう道路予算、例えばどのようなところに多く使われているのか。例えば国道371号の拡幅ですとか、そういったものから生活道路の建設課で補修していただいているような補修であったり、いろいろ幅があるかと思うんですが、どのような点で県下から見て高いというような数字が出ているのか、分析はされておりますでしょうか。

○議長（中西峰雄君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）道路予算の中でも道路橋梁費に対する費用というのが、本市では平成20年度で約6億円でございます。特に本市は地形的な面もあるわけでございますけれども、通常の一般生活道路というものに非常に経費を費やしておると。それから新たな道路建設では、清水西畑幹線のように、今ちょうど工事中ですけれども、その幹線に道路予算をかなりつぎ込んでおりますので、そんな関係で道路予算が伸びておるといような状況になっております。

ちなみに、371号線につきましては国道になりますので、直接実際の施工は県になります。371号に対して市の負担というのはしておりません。

○議長（中西峰雄君）13番 瀧君。

○13番（瀧 洋一君）済みません、371号に関しては私もそれは認識しておったんですが、ただ今の発言で市の負担があるのかというように形で発言してしまいました。済みません。

そうすると、一般生活道路に対してのものが多。一つついでに勘違いされると困るんですが、民主党は何も道路をつくらないと申し上げておるわけでは決してございません。国道371号バイパスについても、必要な道路は積極的につくっていく。京奈和自動車道をとめることもいたしません。これははっきり申し上げておきます。ただ無駄な道路は、100kmで走れる4車線も要るような、何本も既にあるところにさらにつくっていく、そのような道路は要らないということを申し上げております。立派な立派な1本5,000万円も1億円もするような橋げたによく虫めがねで見たらLVと書いてある。ブランド物かと思うような立派な道路は要りませんと。そんな立派な道路をつくるのであれば、大手のゼネコンでないと受注できないんですよ。それであれば、60kmで走れる、本当に私たちの暮らしに必要な生活道路を3本でも4本でもつくっていきこう、そしてまたそれは地元の業者で受注できる、そんな道路をつくっていききたい、これが民主党の考え方です。常にB/C、考えながら無駄な道路はつくっていかない、これが私どもの考え方でございます。これは質問から少し余談になりますけれども、それだけは申し上げておきます。

ですから、一般生活道路のところにお金をかけていくという点について、何も問題と認識しておるわけではないんですけれども、どのような形で補修なり新設の要望等ということ、どなたの判断でこういうのは予算付けをしていっておられるのか。その過程について教えてください。

○議長（中西峰雄君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）まず、予算につきましては、やはり地域の地元要望に基づいて行っております。それと来年度そういった補助財源に乗っかるものについてはできるだけ乗っけていくという形で、来年度につきましては地域活力基盤創造交付金ということで、これは補助率10分の5.5でございます。昔の臨時交付金というかわりのものでなっております。その中で、来年度要望の中では地方道路整備事業として三石台垂井線の舗装のやりかえ、これを3カ年にわたって要望をしていくつもりであります。それとあと清水西畑幹線の枝ですけれども、隠れ谷池という線につきましても道路整備ということで来年度要望をしております。ただし、これにつきましては今凍結ということで来年どういう予算の付き方になるのかわかりませんが、もしこれを単費でせいということになれば、非常に難しいということで考えております。

○議長（中西峰雄君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）本市の事業の予算の組み方でございますけれども、まず長期計画に基づきます実施計画ということで、次年度予算の前年度でございますけれども、各課から3カ年ぐらい先まで見据えた事業の予算というんですか、内容を提出させます。そういうことで、事業の内容につきましては継続事業、それから1,000万円以上の新規事業ということで、ソフトもハードも全部提出いただいております。その実施計画につきましては精査しまして、これを政策調整会議、庁内の最高会議でございますけれども、その中で議論しまして採択、不採択を決めていきます。それで次年度の予算編成の方向性がつくわけでございますけれども、そのことにつきまして、これが8月、9月頃の作業でございますけれども、それ以降で次年度予算、当初予算の編

成がございます。それに基づきまして予算要望が出てきた中で、再度政策調整会議、それから市長査定にかけた中で決定していくというようなシステムになってございます。そういうことで、これからそのシステムも修正していかならん部分もあるかないかということも検討しなければいけませんけれども、現在の予算編成のシステムはそういう形で庁内では動いてございます。

○議長（中西峰雄君）13番 瀧君。

○13番（瀧 洋一君）ありがとうございます。ちょっと期待していた以上の答弁をいただいたんですけども、ちょっと戻しまして、先ほど道路関係と地元要望というようにご答弁があったんですが、地元要望というのはどのような形で、どのようなルートで上がってきているのか。また、長期計画から見てというお話もあったんですが、市のほうから政策的にここは必要だというように判断される場合と、地元の要望を受けて予算を付けていくというのと、今道路ということに関してはどのような、地元または市と、そのプロセスにおいての違い等ちょっと教えてください。

○議長（中西峰雄君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）まず補助体系に乗っかる整備事業と、地元直轄の単位区長さんとか、本当に修繕関係というのは非常に地元要望がかなり多くございます。そういったものにつきましては、補助金の枠には乗っからない部分が多々あります。それをなおかつ補助体系に乗っけるような形にはまずできないかどうかというのも精査して、いけるものについては補助をもらいにいくという基本姿勢であります。なお、先ほど言いました、特に幹線道路等につきましては、地元の要望じゃなしに市として維持管理の上で非常に危ない状態とかありますので、そういったものにつきましては、市としては本年度はこの路線を

するとかというのを先ほど企画部長が言いました政策調整にかけまして、予算どりをしていくという形しております。単純に単費しかだめだというようになれば、先ほど言いました国費の部分につきまして単費しかしないとなれば、本当に市の単費の中で何百万とかそういうオーダーの中で、何十年かけてそこを修繕していくとかという形にはなりません。国費を土木としても非常に頼りにしておりますので、そういった中でいかに組み込んでいけるかというのをまず視野に入れて、それと地元の要望との中で合致すれば一番前向いて進むんじゃないかとは思っております。

○議長（中西峰雄君）13番 瀧君。

○13番（瀧 洋一君）わかりました。

そしたら③に移りたいと思うんですけども、まず最初にご答弁いただきました単独一般行政経費ですか、この単独経費、今回算出いただいた金額についてなんですが、これは補助事業を除いてすべて市単独の行政経費のみを出していただいているのか、補助のついている事業についてもその補助分を除いた金額という意味なのか、それについて確認させてください。

○議長（中西峰雄君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）一般行政経費の単独分といいますのが、全く補助事業と関係なしのすべて地方単独事業という位置付けの経費でございます。

○議長（中西峰雄君）13番 瀧君。

○13番（瀧 洋一君）ということは、これこそが橋本市としてやろうとする、国の流れ、県の流れにかかわらず、この橋本市としてやっていきたい事業であると、そういう理解でよろしいでしょうか。

○議長（中西峰雄君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）議員おただしのおり、やはり市が重点的に力を入れていると

いう経費の配分にはなろうかと思えます。

○議長（中西峰雄君）13番 瀧君。

○13番（瀧 洋一君）わかりました。そうしますと、実は私も大変失礼なあれですけども、ちょっと意外やったかなという思いはあります。昨日同僚議員が質問されていた教育費に関しても、全体の試算でいうと20.1%と、もっと少ないのかなと思っていたんですが、教育委員会が頑張っていたらいたるんだなということ認識をいたしました。

それで見てみますと、次いで多いのが清掃費ということやはり先ほどのごみ処理ということになっていくんですが、次いで少子化ですね。これは市長がおっしゃっているとおり非常にいい市政ができ上がっているんだなということで、実は感心をしておるんですけども、それでいきますと、逆に地域基盤等整備に関する経費、土木費ですね、これが案外先ほどに比べて少ないなということなんですが、この辺はどのように分析されておりましたでしょうか。

○議長（中西峰雄君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）土木費関係とか、もちろん農林業関係の予算というのが一般財源に占める割合というのが非常に少なくなっています。それはどういうことかといいますと、やはり国の補助事業に乗っている事業が多いということの解釈でございます。

○議長（中西峰雄君）13番 瀧君。

○13番（瀧 洋一君）そしたら、その中でも市単でやらないといけない、市単でやっていくんだ、補助事業に乗らなくても、大概先ほどの建設部長の答弁でもできるだけ補助に乗せていった形でやっていきたい、これは当たり前かと思うんです。それでも市単独事業としてやっていかななくてはならないというのはどのようなケースがあるのか、何か例示がございましたら教えてください。

○議長（中西峰雄君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）まず道路維持の修繕費ということで、道路維持修繕費ということで、本当に改良のような非常に幅員をとってする工事とこの場所でちょっと溝がこけて水がもれておるとか、ちょっとした舗装の修繕とか、そういったものでございます。それを寄せ集めたら非常に今までの要望件数から比べたら何億円というお金が要るということになっておるんですけれども、その中でもやはり市の予算の範囲の中で市の単独費というのを付けてもらって、その中で地域にいろいろ割り当てながら要望の中で動いておるということです。そして、やはり地元の方にも非常に待っていただいているというのが多くございまして、その中でも優先順位を付けて地元と何をさせていただいて今年度はこの場所をすとかという形の中でやっております。

○議長（中西峰雄君）13番 瀧君。

○13番（瀧 洋一君）それは私どももお願いにあがったりというケースもあるんで理解できるんですが、かなりの件数ありますよね。本当にそれを消化するのに一体何年かかるのか。何年かかる先からどんどん増えてきて、いつまでたっても消化し切れないというのが実情なのかなと思うんですが、そんな中で優先順位というのはどのように判断されているんですか。もちろん危険だと。それは担当の課長なり部長なりの判断で危険であるとか早急に措置をしなくてはいけない、そのような判断をされているのか、または区長さんから何回も陳情に来てもらっているんですとか、そんなようなことも判断の一つとしてあるのかどうか、ちょっとお尋ねします。

○議長（中西峰雄君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）まずいろんな要素がやはりございまして、優先的にはやはり危険な場所という形の中で、職員がまず箇所付

けをして、それも特定のところばかりではそこばかり予算がいくと。地域全体、旧高野口、旧橋本をながめた中で、その中の要望の件数とそこにどのぐらいの割り当てをしていくかという形で箇所付けを市の建設課なりが独自でやりまして、あとは市長にすべて現場を見ていただいて、その中で箇所付けを行っております。

○議長（中西峰雄君）13番 瀧君。

○13番（瀧 洋一君）市長も全部これをごらんいただいているんですか。大変な激務と敬意を表したいと思います。

そしたらだいたい、いろんな要望というところで予算付けというのはあると思うんですけれども、政策調整会議というような話もありましたけれども、そんな中でもいろんな陳情がなされて予算付けがされていくのかなと思いますけれども、先ほど、国に対してもそうなんです、陳情により取り上げていくというのがどの程度市政においてウエートを占めているのかなという点で、ご所見をお伺いできたらと思うんですけれども。

○議長（中西峰雄君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）陳情を受けたというのは事実としては認識しますけれども、基本的にはやはりすべての状況を踏まえた中で政策調整会議の決定ということで考えてございます。陳情が多かったからというような形のものではないということを理解していただきたいと思います。

○議長（中西峰雄君）13番 瀧君。

○13番（瀧 洋一君）わかりました。そしてらもう何かお昼も近づいてきておりますので、皆終われというような冷たい視線がささってきておるわけですが、最後にこれは要望としてなんですけれども、2年前の9月議会で私も提案させていただきました市民の希望枠といいますか、総予算の0.1%なりでも、

もう少し少なくてもいいんですけども、市民の提案により事業を実施していく。そうした市民の中から政策調整会議等へ提案をしていけるような事業を、ある一定予算枠だけ公募して使っていく。そんな市民の声が反映できるような予算というのも、あれから2年たっておるんですけども、また今後検討をしていていただきたいと要望いたしまして、今回の私の一般質問を終わります。

○議長(中西峰雄君) これをもって、13番 瀧君の一般質問は終わりました。

この際、1時まで休憩いたします。

(午前11時58分 休憩)